

Flash Report

2018年10月12日発行

「ラッセル・インベストメント・グローバル・バランス(愛称:ライフポイント®) 安定型／安定成長型／成長型」 運用会社の変更について

このたび、「ラッセル・インベストメント・グローバル・バランス(愛称:ライフポイント®) 安定型／安定成長型／成長型」の主要投資対象の一つである「ラッセル・インベストメント外国債券マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)において、2018年10月12日付で運用会社構成を一部変更し、これまで一般債重視型運用を担当しておりましたルーミス・セイレス・アンド・カンパニー・エル・ピー(以下「ルーミス」といいます。)に替えて、新たにインサイト・インベストメント・マネジメント(グローバル)リミテッド(以下「インサイト」といいます。)を広範囲型運用として、採用いたしました。

以下では、今回の運用会社構成変更の目的および新規採用の運用会社の概要につきまして、ご説明いたします。

運用会社構成変更の目的

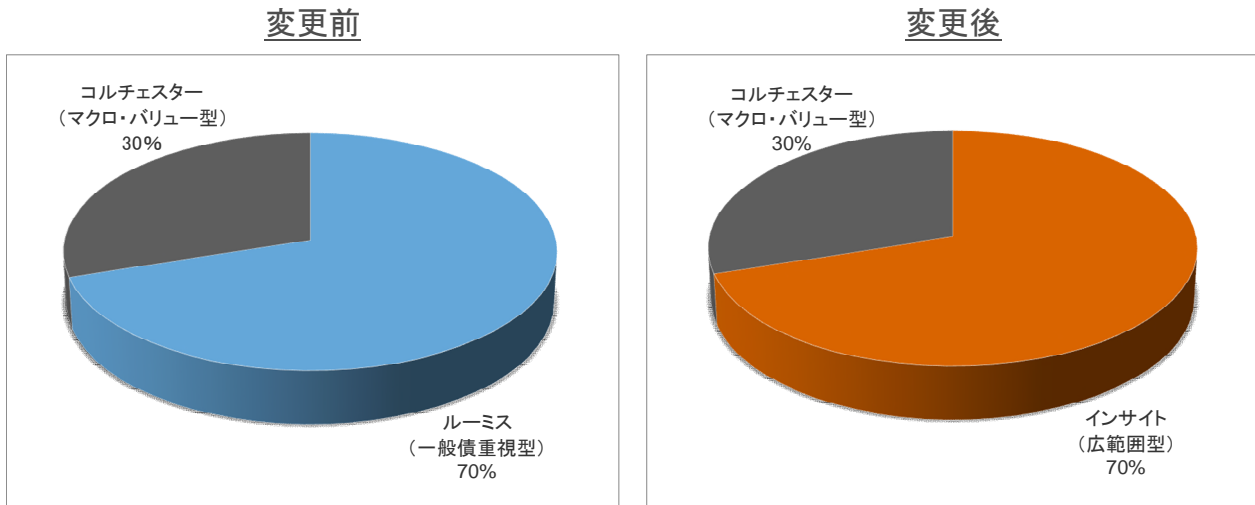
今回の運用会社構成の変更は、一般債重視型のルーミスに替えて、広範囲型のインサイトを採用することにより、引き続き安定した超過収益の獲得を目的とするものです。

インサイトは、多様な戦略に幅広く分散投資を行う運用会社であり、ラッセル・インベストメントグループの運用会社調査チームは、その総合力を高く評価しています。特定の戦略に偏ることなく、国別配分、種別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった、あらゆる超過収益源泉にオポチュニスティックに投資する運用能力を有しております。現在、当マザーファンドで採用しているマクロ・バリュー型運用のボルチェスター・グローバル・インベスターズ・リミテッド(以下「ボルチェスター」)が各国のマクロ分析に基づく金利戦略および通貨戦略を中心に運用を行うことから、2社の補完効果が期待できます。今回の変更により、当マザーファンド全体のリスク特性に大きな影響を与えることなく、安定した超過収益の獲得を目指します。

インサイトについて

インサイトは2002年に設立され、ロンドンを拠点に、年金基金や金融機関を中心とした機関投資家の資金をグローバルに運用している大手運用会社です。大規模な債券運用チームを有し、特に発祥の地である欧州債券運用に強く、ここ数年は米国債券運用チームを含め、グローバル債券運用体制を強化してきました。非常に幅広い超過収益源泉をカバーし、国別配分からクレジットの個別銘柄選択まで、市場環境の変化に合わせて柔軟に投資する能力を持ち、総合的なリターン獲得を期待できると、ラッセル・インベストメントでは同社を評価しております。

各運用会社への目標配分割合



(注1) 「運用会社」について、運用の指図にかかる権限を委託する運用会社を「外部委託先運用会社」、外部委託先運用会社が投資助言を受ける会社を「投資助言会社」ということがあります。

(注2) 「目標配分割合」とは、運用会社を組み合わせる際に目安とする配分割合をいいます。

(注3) 運用会社(外部委託先運用会社/投資助言会社)の構成および目標配分割合は変更されることがあります。

今回の運用会社構成の変更は、ラッセル・インベストメント グループの継続的な運用会社調査の結果に基づくもので、マルチ・マネージャー・ファンドならではの特徴の一つです。

ラッセル・インベストメントのマルチ・マネージャー・ファンドでは、皆様の投資目標の実現を図るため、今後も状況の変化等に応じて、適切な運用会社構成の変更等を実施してまいります。

以上

Copyright © 2018. Russell Investments. All rights reserved.

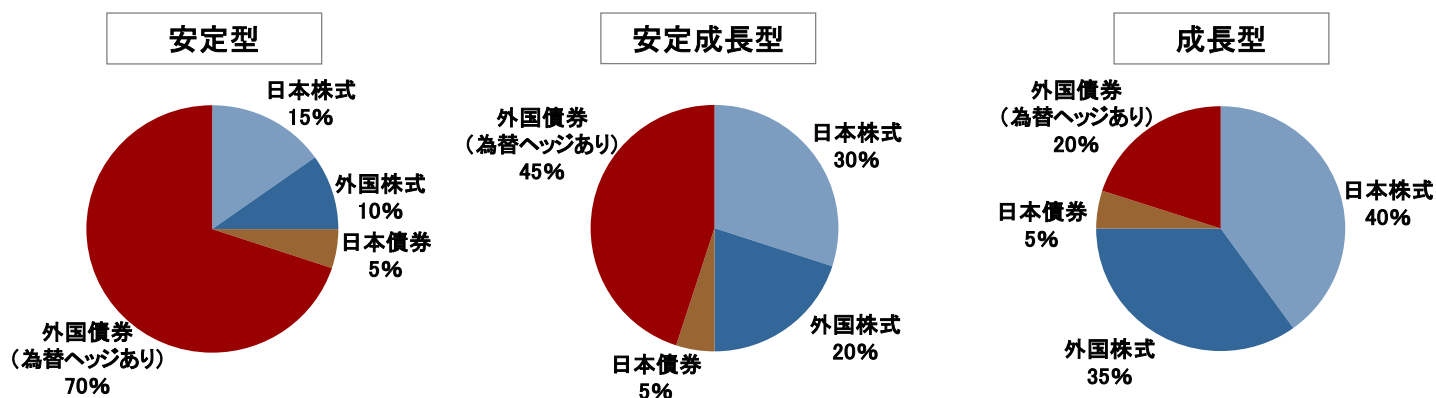
当資料中「ラッセル・インベストメント」は、ラッセル・インベストメント グループの会社の総称です。

ラッセル・インベストメントの所有権は、過半数持分所有者のTAアソシエーツおよび少数持分所有者のレバランス・キャピタル・パートナーズとラッセル・インベストメントの経営陣から構成されています。

フランク・ラッセル・カンパニーは、当資料におけるラッセルの商標およびラッセルの商標に関連するすべての商標権の所有者で、ラッセル・インベストメント グループの会社がフランク・ラッセル・カンパニーからライセンスを受けて使用しています。ラッセル・インベストメント グループの会社は、フランク・ラッセル・カンパニーまたは「FTSE RUSSELL」ブランド傘下の法人と資本的関係を有しません。当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。ラッセル・インベストメントによる事前の書面による許可がない限り、資料の全部または一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮ください。

当資料においてご説明するファンドは、ファミリーファンド方式により運用する当社設定の投資信託の主要投資対象である親投資信託(マザーファンド)に係わるものです。マザーファンドには直接ご投資できません。

各ファンドの基本資産配分割合



各ファンドの基本資産配分割合は上記のとおりです。なお、基本資産配分割合については、年2回見直しを行う他、運用環境の見直し等の大きな変更が信託財産の中長期的な成長に影響を及ぼす可能性が高いと判断した場合には、見直しを行うことがあります。また、市場環境等の変化により信託財産の中長期的な成長に影響を及ぼす可能性が高いと判断した場合には、委託会社の裁量により当該基本資産配分割合を±10%以内の範囲で変更することがあります。

外部委託先運用会社/投資助言会社リスト

マルチ・アセット 《資産クラス》		マルチ・スタイル 《運用スタイル》		マルチ・マネージャー 《運用会社》	
日本株式	ラッセル・インベストメント 日本株式マザーファンド	グロース型	バリュウ型	アセットマネジメントOne	カムイ(投資助言:注)
		グロース型	バリュウ型	損保ジャパン日本興亜	
		マーケット・オリエンテッド型	マーケット・オリエンテッド型	ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション	
				ニューメリック	
				スパークス(投資助言:注)	
外国株式	ラッセル・インベストメント 外国株式マザーファンド	グロース型	バリュウ型	フィエラ(投資助言:注)	
		グロース型	バリュウ型	モルガン・スタンレー(投資助言:注)	
		マーケット・オリエンテッド型	マーケット・オリエンテッド型	サンダース(投資助言:注)	
		ポートフォリオ特性補強型		ジャンナス(投資助言:注)	
				ニューメリック	
				ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション	
日本債券	ラッセル・インベストメント 日本債券マザーファンド	広範囲型		ウエスタン	
		広範囲型		アセットマネジメントOne	
外国債券*	ラッセル・インベストメント 外国債券マザーファンド	マクロ・バリュウ型		コルチェスター	
		広範囲型		インサイト	

※「ラッセル・インベストメント外国債券マザーファンド」への投資部分については、各ファンドで為替ヘッジを行います。

(注)各投資助言会社の投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーションが運用の指図を行います。

ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド

ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンドは、国内の取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(TOPIX・配当込み)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用スタイルと運用会社を採用することにより、ファンド全体でリスクをコントロールしながら、超過収益の獲得を目指します。グロース型、バリュー型、マーケット・オリエンテッド型などの運用スタイルだけでなく、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

＜グロース型＞ アセットマネジメントOne(日本) 24.0%

アセットマネジメントOneは、今後数年で大きな利益成長を遂げると考える企業に投資します。マクロ状況・投資家動向への理解が深く、ボトムアップでの銘柄選択に加えて、ポートフォリオ構築のエッセンスになっています。

＜グロース型＞ カムイ・キャピタル(日本)(投資助言) 8.0%

カムイは、コントリビューション・アプローチを基本とし、情報ギャップや流動性の高低から発生する投資家の盲点となっている変化・成長を見逃さず、株価の上昇をもたらすカタリストを特定するグロース・マネージャーです。なお、カムイの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。

＜バリュー型＞ 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント(日本) 20.0%

損保ジャパン日本興亜は、「ノーマル収益力」(企業の本質的かつ恒常的な収益力)という概念をベースにした中長期ファンダメンタルズに基づく投資価値を、配当割引モデルをベースにした独自のバリュエーションモデルで算出し、割安度の高い銘柄を中心に投資します。厳格な売却規律を持ち、目標株価を達成した銘柄は速やかに売却します。

＜バリュー型＞ ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ(米国) 10.0%

ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズは、委託会社が必要と判断した場合にファンドの一部についての運用を行います。当該部分においては低PBR(株価純資産倍率)銘柄を中心としたポートフォリオ(ディープ・バリュー)を構築することにより、ファンドの低PBR特性を補強します。

＜マーケット・オリエンテッド型＞ ニューメリック・インベスターズ(米国) 26.0%

ニューメリックは、運用モデルの開発に優れたりサーチ陣容や日本株市場に習熟したポートフォリオ・マネージャーを備え、バリュエーションや業績予想修正、収益構造等の有効なファクターをバランス良く的確に捉える運用モデルを活用します。

＜マーケット・オリエンテッド型＞ スパークス・アセット・マネジメント(日本)(投資助言) 12.0%

スパークスは、高い技術力やブランド力があり、グローバルでの活躍が今後も期待できる企業に投資します。銘柄を厳選するため、保有銘柄は少数に絞られ、非常に集中したポートフォリオとなります。なお、スパークスの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。

ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンド

ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(MSCI KOKUSAI・配当込み)を上回ることを目標として運用を行います。グロース型、バリュー型、マーケット・オリエンテッド型などの異なる運用スタイルを持つ運用会社を最適な割合で組み合わせ、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

＜グロース型＞ フィエラ・キャピタル(米国)(投資助言) 15.0%

フィエラは、ROIC(投下資本利益率)やROE(自己資本利益率)、EVA(経済的付加価値)を重視して、高クオリティで合理的なバリュエーションを備えた成長性の高い銘柄をボトムアップ・アプローチで選別します。また、ファンダメンタルズ分析では、企業を持つ競争力や参入障壁、経営陣の質などを重視します。なお、フィエラの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。

＜グロース型＞ モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント(米国)(投資助言) 15.0%

モルガン・スタンレーは、ROIC(投下資本利益率)やフリーキャッシュフローに着目し、長期的な視点から、独自の競争力を持ち、成長性が期待できる銘柄を選別します。ベンチマークはあまり意識せず、新興国株式を含め、比較的銘柄数を絞ったポートフォリオを構築します。なお、モルガン・スタンレーの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。

＜バリュー型＞ サンダース・キャピタル(米国)(投資助言) 20.0%

サンダースは、グローバルな視点から投資テーマを的確に踏まえて個別銘柄を分析し、当該企業の持つ本質的企業価値に対して大きく割安であると判断する銘柄を選別します。なお、サンダースの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。

＜バリュー型＞ ジャナス・キャピタル・マネジメント(米国)(投資助言) 15.0%

ジャナスは、PER(株価収益率)やPBR(株価純資産倍率)、PCFR(株価キャッシュフロー倍率)等のバリュエーション指標に加え、財務健全性やキャッシュフローの堅実性を重視するなど、株価のダウンサイドに留意したバリュー運用を行います。なお、ジャナスの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。

ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンド**<マーケット・オリエンテッド型> ニューメリック・インベスターズ(米国) 22.5%**

ニューメリックは、運用モデルの開発に優れたリサーチ陣容や経験豊富で優秀なポートフォリオ・マネージャーを備えており、バリュエーション、業績予想修正、株価モメンタム等の有効なファクターをバランス良く的確に捉える運用モデルを活用して、超過収益の獲得を目指します。

<ポートフォリオ特性補強型> ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ(米国) 12.5%

ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズは、委託会社が必要と判断した場合にマザーファンドの一部について運用を行います。当該部分においては、採用している他の運用会社の運用戦略の特徴を活かしながら、マザーファンド全体としてのポートフォリオ特性を補強するために必要なファクター(バリューやクオリティ、モメンタム、低ボラティリティ、高配当など)の運用を行います。

ラッセル・インベストメント日本債券マザーファンド

ラッセル・インベストメント日本債券マザーファンドは、日本の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(NOMURA-BPI総合指数)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。

<広範囲型> ウェスタン・アセット・マネジメント(日本) 50.0%

ウェスタンは、グローバルに展開する債券特化型の運用会社です。デュレーション(金利感応度)戦略やイールドカーブ(利回り曲線)戦略などの金利戦略においては、グローバルな視野と高い調査能力を活かし、マクロ経済から需給関係まで精緻な分析により投資を行います。また、クレジット戦略においては、同社が有するグローバルなクレジット調査体制を生かし、サムライ債等のセクター戦略および個別銘柄選択を強みとしています。

<広範囲型> アセットマネジメントOne(日本) 50.0%

アセットマネジメントOneは金利、クレジット/セクターの両戦略において、安定した超過収益の獲得を目指します。金利戦略部分では、投資家行動や需給分析に強みがあり、その分析能力を基に極めて短期的なポジションを機動的に数多く取ることで、超過収益の積み上げを図ります。クレジット/セクター戦略部分では、クレジットアナリストが定性、定量両面から精緻な信用力分析を行い、ポートフォリオ・マネージャーが個別銘柄選択を行います。また、投資ユニバースの拡充にも積極的です。

ラッセル・インベストメント外国債券マザーファンド

ラッセル・インベストメント外国債券マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース))を上回ることを目標として運用を行います。当ファンドの大部分は国債や、高い格付けの債券に投資されます。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。

<マクロ・バリュー型> コルチェスター・グローバル・インベスターズ(英国) 30.0%

コルチェスターの運用スタイルは、各国の経済情勢や財政の健全性などのマクロ分析を通じて、相対的に高いリターンが見込める、割安感の強い国の債券および通貨を発掘するというものです。割安であるか否かの判断は、実質金利や購買力平価などを予測する同社独自の定量モデルを用いて行われ、この結果に定性判断を加味することにより国別および通貨別の配分が決定されます。

<広範囲型> インサイト・インベストメント・マネジメント(英国) 70.0%

インサイトは、特定の戦略に偏ることなく、国別配分、種別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった、あらゆる超過収益源泉をカバーし、市場環境の変化に合わせて柔軟に投資する運用能力を有しています。

(注)2018年10月12日付で、一般債重視型を担当していましたルミス・セイレスに替えて、新たに広範囲型としてインサイト・インベストメント・マネジメントを採用しました。

※各マザーファンドでは、マザーファンド全体の運用効率を高めること、各外部委託先運用会社の入替え等に際しての資産の移転管理および一時的な運用、委託会社が必要と判断した場合におけるマザーファンドの一部についての運用(他の運用会社からの投資助言等に基づく運用を含みます。)等を行うため、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズを採用しています。

◎主な投資リスク

以下は各ファンドの基準価額に影響を及ぼす主なリスクであり、リスクは以下に限定されるものではありません。

1. 株価変動リスク

株価は国内外の景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受けます。一般に、株価が下落した場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

2. 株式の発行会社の信用リスク

株式の発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が下落した場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

3. 金利変動リスク

債券は、金利の変動により価格が変動します。一般に金利が上昇した場合、債券の価格は下落し、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

4. 債券の発行体の信用リスク

債券の発行体が経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる(債務不履行)場合、もしくは債務不履行に陥ると予想される場合、債券の価格が下落し、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

5. 為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。各ファンドでは、ラッセル 外国債券マザーファンドを通じて投資する外国債券に係る部分について、為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。為替ヘッジを行う際、円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストが発生します。

6. カントリーリスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因になり、また投資方針に沿った運用ができない可能性があります。

7. 流動性リスク

各ファンドで短期間に相当金額の換金申込みがあった場合、組入れている株式や債券を売却することで換金代金の手当てを行います。組入れている株式や債券の市場における流動性が低いときには、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があり、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

◎ご留意いただきたい事項

当資料はラッセル・インベストメント株式会社が各ファンドの運用状況等に関する情報の提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。購入のお申込みにあたっては、必ず投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社でお受取りになり、内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

1. **各ファンドは主に国内外の株式および債券を実質的な投資対象としますので、組入株式および組入債券の価格の下落ならびにそれらの発行者の倒産または財務状況の悪化等の影響により、各ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、これらに加え外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、各ファンドの基準価額が下落し損失を被ることがあります。したがって、投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。投資した資産の減少を含むリスクは投資者のみなさまが負うこととなります。なお、投資信託は預貯金と異なります。投資者のみなさまにおかれましては、各ファンドの内容・リスクを充分ご理解の上、お申込みくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。**
2. 各ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、マザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動等があり、その結果マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、各ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。
3. 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他合理的な事情があると委託会社が判断したときは、委託会社の判断により、各ファンドの購入・換金のお申込みの受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消することができます。
4. 信託期間中であっても、一部解約等の影響により、純資産総額が小さくなった場合等には期日を繰り上げて償還することがあります。
5. 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元金の保証はありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資者のみなさまが負います。
6. 投資信託は、預金、保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
7. 金融商品取引業者(従来の証券会社)以外でご購入された場合、投資者保護基金の対象とはなりません。
8. 法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。
9. 各ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
10. 分配金に関する留意点
分配金は、預貯金の利息と異なり、各ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額が下落します。
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は計算期間における各ファンドの収益率を示すものではありません。
投資者の各ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。各ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。
11. 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
12. 資金動向、市場動向によっては投資方針に沿った運用ができない場合があります。

ファンド概要

- 1 日本株式、外国株式、日本債券および外国債券(為替ヘッジあり)を実質的な主要投資対象とします。
- 2 投資目的などに応じて資産配分割合の異なる3つのファンドから選択できます。
債券への配分割合を高め、成長性よりも安定性を重視する「安定型」、株式と債券へ概ね50%ずつ配分し、成長性と安定性のバランスをとる「安定成長型」、株式への配分割合を高め、より積極的に成長性を追求する「成長型」の3つのファンドがあります。
- 3 3段階のリスク分散「マルチ・アセット、マルチ・スタイル、マルチ・マネージャー運用」
 - マルチ・アセット(資産区分の分散)、マルチ・スタイル(運用スタイルの分散)、マルチ・マネージャー(運用会社の分散)という3段階のリスク分散を行い、より安定した運用成果とリスクの低減を目指します。
 - 世界中から厳選した複数の運用会社を、最適と判断される目標配分割合で組み合わせます。
 - 運用会社を継続的にモニタリングし、必要に応じて運用会社や目標配分割合の変更を行います。

お申込みメモ

※詳細については投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。

購入の申込受付	原則としていつでも購入のお申込みができます。ただし、毎年12月25日は購入のお申込みができません。各営業日の午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。
ご購入に際して	販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。 ※詳細は販売会社にお問い合わせください。
購入単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金の申込受付	原則としていつでも換金のお申込みができます。ただし、毎年12月25日は換金のお申込みができません。各営業日の午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。換金代金は原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いいたします。 なお、ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口のご換金には制限を設ける場合があります。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	原則として無期限です。ただし、各ファンドともに、ファンドの純資産総額が30億円を下回ることとなった場合等には、繰上償還となる場合があります。
決算	年1回(毎年11月18日。ただし、休業日の場合は翌営業日。)
収益分配	年1回の決算時に配分方針に基づいて分配を行います。ただし、分配の有無および分配金額は、基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度および未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

※ファンドの費用(手数料等)の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

①投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	販売会社がそれぞれ定める率とします。なお、手数料率は、 2.160%(税抜2.00%)を上限 とします。
換金時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

②投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	安定型 : ファンドの日々の純資産総額に 年率1.2096%(税抜1.12%) を乗じて得た額 安定成長型 : ファンドの日々の純資産総額に 年率1.2312%(税抜1.14%) を乗じて得た額 成長型 : ファンドの日々の純資産総額に 年率1.2636%(税抜1.17%) を乗じて得た額 ※ 各ファンドおよび各マザーファンドで運用の指図にかかる権限の委託をしている各外部委託先運用会社への報酬額は、委託会社と当該各外部委託先運用会社との間で別途定められ、委託会社が受ける報酬から支払われます。
その他の費用・手数料	組入有価証券の売買時の売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等が各ファンドから支払われます。 これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

ファンドの関係法人

委託会社	ラッセル・インベストメント株式会社 (ファンドの運用の指図を行います。) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 TEL 0120-055-887(フリーダイヤル)(受付時間: 営業日の午前9時~午後5時) http://www.russellinvestments.com/jp/
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 (ファンドの財産の保管および管理を行います。)
販売会社	販売会社一覧 をご覧ください。(ファンドの販売業務等を行います。)
外部委託先運用会社	ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ・エル・エル・シー (各ファンドの外国為替予約取引の指図を行います。)

販売会社一覧

販売会社名 (50音順)	登録番号等		加入協会			
			日本証券業 協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社 SBI 証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
野村證券株式会社 [※]	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○		○	○

※ 野村證券株式会社は、購入のお申込みの受付を行いません。